

20歳未満の人の飲酒を防止しよう！

問 健康推進課（金屋庁舎）
清水行政局住民福祉室

4月は未成年者飲酒防止強調月間です。令和4年（2022年）4月から成人年齢が18歳に引き下げられました。飲酒についての年齢制限はこれまでと変わらず20歳です。

飲酒が20歳未満の人に与える影響

身体的な影響

脳が成長途中のため、そのような状態で飲酒を始めると、アルコールが脳神経を破壊して記憶力・判断力・意欲の低下につながります。また、20歳未満の人の臓器はアルコールに対する耐性が弱く、肝臓で分解できなかったアルコールが体内を巡ると肝障害・膵臓障害を引き起こしたり、急性アルコール中毒になる可能性も高くなります。

精神的な影響

命の危険もある「アルコール依存症」は、飲酒開始年齢が低いほど発症

する可能性が高いといわれています。また怒りっぽくなる、自己中心になるなど性格が変わってしまうことや、集中力が続かず学習意欲の低下などにもつながります。

社会性への影響

飲酒で脳が傷つくと、理性的な行動ができなくなり、怠学・成績不振など学校での生活に支障をきたしてしまいます。また、アルコールにより判断力が鈍ったり感情が高まりやすくなったりすると、暴力行為などを起こしてしまう原因にもなります。

飲酒を止めるのは大人の役割

「未成年者飲酒禁止法」には、家族や大人は20歳未満の人の飲酒を知ったときには止める義務があると規定されています。

子どもが飲みたいと言うのなら仕方ない、隠れて飲まれるより親と一緒に飲む方が安心などは間違った考

え方です。特に冠婚葬祭などで大人が飲んでいるときに、一杯勧めてしまうということがないように気を付けましょう。

20歳未満の飲酒をとめるために

- ・まずは大人がしっかりとけじめをつけ、20歳未満の飲酒はだめという姿勢を貫く。
- ・20歳未満の飲酒が禁じられている理由をきちんと説明する。
- ・飲酒を勧められたときの断り方を教える。

お酒の上手な断り方

- ・飲まない！という意思をはっきり伝える／きっぱりと相手に伝えるのがベストな方法です。それでも勧められるときは、その場を去るのも一つの手段です。
- ・飲まない理由を分かってもらおう／「部活動に支障が出るから」など、自分が大切に行っていることを理由に断りましょう。
- ・20歳未満の飲酒はいけないと主張する／20歳未満の人にとって、飲酒しないという選択は法律上で決まっている当たり前のことなので、自信をもって主張しましょう。

乳幼児を子育て中の皆さまへ
**子育て支援センターは
皆さまの子育てを応援します！**

鉄道公園で遊ぼう！

～はるかぜを感じながら～

- 日時／4月20日（木）10:00～11:00
- 場所／鉄道公園
- 定員／10組程度
- 参加費／無料
- 申込／4月7日（金）8:30～

開設日時など

あそびのひろば	金曜日（4月7日・14日・21日・28日）	10:00～11:00
	※予約制。 詳細は予定表でご確認ください。	14:00～15:00

※実施状況や毎日の予定表などは、町ホームページでもお知らせしています。

子育て支援センターでは、一時預かり保育を行っています。詳しくは町ホームページをご覧ください。お気軽にお問い合わせください。



子育て支援センター ☎ 090-7966-1697・52-5474（ファクス兼用）